

バブル後、日本が低迷している理由

評論家 寺島実郎



YDA Photo/Asa Yu

寺島 実郎(てらしまじつろう、1947年8月11日 -)は、日本の評論家。多摩大学学長・教授、帝塚山大学特別客員教授、三井物産戦略研究所会長(経営企画部)、日本総合研究所理事長、新潟県知事泉田裕彦後援会会長を兼任。北海道雨竜郡沼田町出身。

■バブル崩壊後、資産家が力を失ってきた。

資産家はインフレ経済下、土地を買い株に投資し資産を増やしてきた。

その土地の評価額は現在、買値の50%。株式は30%にしかない。皆 大損をしている。

2億の資産があり1億円を土地に、1億円を株で運用していた人の現在は、土地で5000万円、株で3000万円の資産で合計8000万円にしかない。(6割減)

土地も株も損をしたまま眠っている状態でお金が動いていない。

■かつて1億総中流だったサラリーマンに貧困化がすすむ。

年収200万円以下のサラリーマンがなんと34%と三分の一が貧困化している。

貧困化の理由の一つのに

■雇用の産業間移動がある。

公共事業の減少から建設業従事者が減り、また製造業が国際競争から海外に動いた。

建設業と製造業から260万人従業者がへり、反面サービス業が460万人増えている。サービス業は正規雇用が少なく従来の建設業・製造業と比較すると年収が100万円以上さがっている。



今後の課題

- 所得の公正な分配と
- 400万円以上年収のとれる産業育成が急務。